

第12期「まちづくり大学」振返り講座の議事録

環境関連班 ファシリテーター (中澤) ()

参加者	岡田、川北、仙波、福田
	進行役 (中澤) 発表役 (川北)

提案者	活動テーマ	取組み方法
岡田	狭山池のごみの減量	まずは、広く市民に現状を知ってもらう。クリーンアクションに新しい参加者を増やす。
川北	配布されるシールの枚数内でごみの排出を抑える。	ごみ問題は主婦に密着した問題。家庭の中でのごみ減量を呼びかける。具体的なごみの減らし方を伝える。
仙波	配布されるシールの枚数内でごみの排出を抑える。 資源ごみの分別	パンフレットを見ていない人も多いため、ごみの減らし方を伝える工夫をする。
福田	若い人たちが住みたいと思う狭山を作るため、環境面からアプローチする。	ビン類の分別を細かくする。 資源ごみの今以上の分別を進める。 今の経費の問題だけでごみ処理問題をとらえず、将来を見据えた環境づくりの観点から、市に働きかける。
話合いの概要	<p>「環境」という大きなくくりではあるが、参加者の関心は「狭山池の美化」と「家庭ごみの排出や資源ごみの分別」についての、大きく2点に絞られた。参加者それぞれが自身の経験を語る中で、ごみシールが足りないという家庭もあれば余っているという家庭もあることに、お互い驚いたりという小さな発見があった。</p> <p>また、ごみ問題は現在の経費を如何に抑えるかという考え方ではなく、「将来的に住みやすい町を若い人たちに残す」という観点で考えるべきだとの議論もあった。</p> <p>主な意見は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①狭山池のごみの減量のために、それぞれの立場で行動する。 ②資源ごみの分別をもっと細かくする。 ③配布されるシール内で収まるよう、ごみの減らし方をPRしていく。 ④これからも住み続けたい町、若い人たちが住み着いてくれる町を目指して、環境面からアプローチしていく。 	

<p>発表内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの削減のために、配布されるシール内で収まるように、ごみの出し方や減らし方をもっとPRしていく。 ・これからも住み続けたい町をめざして、資源ごみの分別に力を入れていく。
<p>感想</p>	<p>主に「狭山池のごみ問題」と「家庭ごみの問題」が話し合われたが、各自の体験や重要視していることが様々出る中で、一つの方向性を持った話し合いになるには時間が不足した。</p> <p>しかしながら、ごみ問題を考えることは将来の大阪狭山市のあり方を考え、住みよい町を作ることにつながるものであるから、市に対して、めざすべき市の将来像を明確にした施策を求めていかなければならないという点では一致していたと思われる。</p> <p>(ファシリテーターの観点から)</p> <p>ファシリテーターの力不足もあり、方向性が見えはじめたところで時間切れとなってしまった。あと 30 分程度必要だという印象だった。まち研への勧誘を一つの目的とするなら、最後の発表は省略して、班ごとに終わってもよかったのではないかな。</p>
<p>その他感想記入</p>	
<p>講座を振り返っての意見・感想として</p> <p>まち大の講座全体について、参加者から次のような感想が出た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生が足りないのでは…と言われて参加したが、結果的には受講してよかった。もともとAコースのみの希望だったが、BCコースも引き続き受講した。住みやすい町を作ることに関心がある。 ・受講したことによって、市の様々なことに関心を持って、広報もよく読むようになった。 ・自治会活動から見えてくるものもある。各自治会から毎年何人か受講するようにすれば得るものは大きいと思う。 ・狭山池博物館の講義は面白かったが、午後は眠くなるので、午前中にできないか。 	